FED 新議長の議会証言と市場

注目されたパウエル議長の初めての議会証言は市場にどんな影響を与えたのだろう。

フェドファンドの先物レートから類推する、金融市場の参加者が見る今後の利上げの可能性は、３月、６月、９月にそれぞれ０．２５％だ。今年３回の利上げという点では議会証言前と変わらない。

ただ前日の市場では３度目の利上げが９月ではなく、１１月だった。それに１２月に４度目の利上げをする可能性が２５％ほどだったが、これが証言後３５％ほどに増えた。

こうした市場の反応を見る限り、新議長の議会証言は幾分金融引き締めに傾いていると捉えられた。

これは彼が昨年１２月時点で予期していたよりも経済の回復が強いとの発言などを反映したものだ。昨年１２月時点で今年３度の利上げが FOMC のメンバーの集約された見方だったので、利上げ回数が増える可能性が出てきたというわけだ。インフレ率についても目標の２％の達成に自信を示した。

だが経済の過熱への懸念で金融引き締めのギアを上げる可能性と２％のインフレが持続的になるように金融緩和基調の維持のバランスを図ることも強調した。

全体としては基本的にイェレン路線を踏襲しつつも彼女よりはタカ派的なパウエル色を出した証言と言える。

今後はトランプ減税やインフラ投資などの経済刺激策がインフレ率や長期金利にどの程度（度合いとスピード）影響を与えるか、それに応じた金融政策を柔軟に打ち出せるかが問題になる。

さらに２％のインフレ率は持続的に達成できるのかという問題も出てくる可能性もある。その時は FOMC のメンバー内の意見も割れるだろうが、学者のキャリアのない新議長のリーダーシップが試される。

いずれにせよ無難な船出は安全な航海を保証するものではない。